

IoTを活用した稼働実績モニタリングシステム

Dsync

機械設備の「見える化」により 効率的な稼働を実現!

「Dsync」は、設備の稼働状況を自動で取得し「見える化」するIoTシステムです。
現場の負担を軽減し、生産効率・機械稼働率の向上を可能にします。

生産現場のお悩みを、IoT導入で解決!

稼働状況の把握

正確な生産数や進捗率を
リアルタイムに把握したい

トラブル時の迅速化

エラー時のトラブル対応を
迅速化しムダをなくしたい

人的ミスの削減

作業日報の記入や集計時の
ミス・漏れを減らしたい

業務の標準化

現場オペレーションを変えず
属人的な要素を無くしたい



製造現場を「見える化」する IoTシステム・Dsync

ラインの状況や機械設備ごとの稼働状況や
生産数量を**リアルタイムに把握**

精度の高い稼働実績データを自動で取得し、
記録の**不正確さや、ミス・漏れを削減**

メーカーや設備(プレス、成形機、NC等)を選ばず、
機械に取り付けるだけでデータを取得

◀ Dsync設置端末

▲ Dsyncソフトウェア

導入事例

事例.1 ダイカスト製品製造

アマタナコン工業団地／従業員規模:約1,000名
(Dsync標準機能)

ラインの稼働率集計をもとに定量的なムダの見える化と正確な進捗管理

機械設備の稼働状況を自動集計し、生産数をリアルタイムに把握することで、定量データを現場改善に活用。また、トラブル時は各マネージャーに自動的に通知が届き迅速な対応を可能にしている。

複数の工場の機械の稼働状況をひと目で“見える化”でき、管理工数も大幅に削減。

事例.2 自動車部品製造

ナワナコン工業団地／従業員規模:約1,500名
(Dsync+タブレット連携)

タブレットでエラー原因を記録することで作業日報に代わって現場の課題を抽出

段取り替え、材料切れ、故障、ポカミス等の設備が止まっている原因をデータ化することで、不良率や稼働率を改善する上での潜在的な課題を現場から抽出。

設備から取得した停止情報と連携し、作業者へタブレット入力を促すことで記録漏れも防止し、精度の高い現場情報収集を実現。

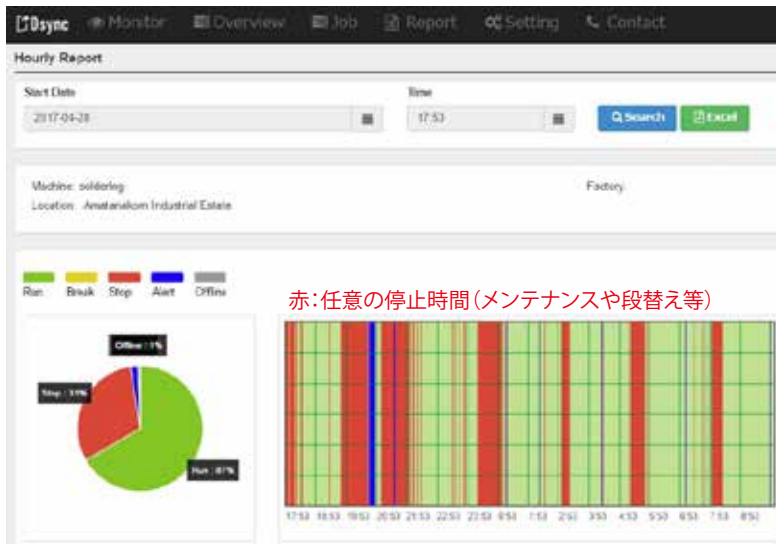
事例.3 工業繊維製造

ピントン工業団地／従業員規模:約50名
(Dsync+タブレット連携+システムカスタマイズ)

エネルギー使用量と稼働状況を測定し製造原価計算の大幅な効率化

設備に投入された材料や電力・ガスの使用量などのエネルギー情報を自動取得。製品や設備ごとに集計を行うことで製造に関するコスト情報の大部分が自動的に算出可能に。管理会計の効率を上げると同時に、稼働状況データとの併用で人事評価・改善への応用としても活用。

Dsyncの機能



赤: 任意の停止時間(メンテナンスや段替え等)

青: エラーによる停止時間(故障、設置不良等)

✓ PC・スマートデバイスで閲覧が可能

サーバにアクセスできる環境であればPCやスマートフォン、タブレットからでも稼働状況の把握が出来ます。

✓ 稼働実績をExcel形式でレポート出力

Dsyncの管理システムよりレポート出力(Excel形式)もでき、作業日報の代わりに活用できます。

✓ LINEやE-mailによる自動通知設定

時間ごとの生産数のレポートや緊急性の高いエラーが一定時間、放置された際のアラート通知をLINEやメールで行えます。※ライングループの権限は自由に変更ができます。



カスタマイズ例

DsyncのカスタマイズやIoTセンサーを使った現場の見える化や現場改善等のご相談もお気軽にお問い合わせください。

タブレットを使ったエラー・トラブル通知による検知

自動取得した情報を現場モニターに表示

取得データを用いたレポートシステムの構築

IoTセンサーを使ったエネルギーコストの取得

